石見地域における工業生産物の特徴と盛衰について
—たたら製鉄業の盛衰と地域の変貌—

鳥谷智文

1．はじめに

石見地域における産業の特徴については、神山典之氏による古田氏支配の元和５年（1619）段階における指摘がある[1]。氏は、邑智・那賀・美濃郡の産業について、小物成帳の記載より、17 世紀初頭において邑智郡では鈩役や鉄穴役が多いことから、たたら製鉄業が主要な産業となっており、那賀郡、美濃郡では釣舟役・鯖舟役などの漁業、塩浜役にみられるような製塩、舟役などの船舶による流通があったことを指摘した。

本稿では、その後の石見地域における産業の特徴を「明治二年　旧浜田藩引継雑款」（島根県立図書館所蔵）所収の「明治二年巳小物成浮役諸運上根帳　七組之内第一」（県浜田引-02-09）、「明治二年巳小物成浮役諸運上根帳　七組之内第二」（県浜田引-02-08）、「明治二年町浦巳小物成浮役諸運上根帳　貳冊之内附録」（県浜田引-02-018）をもとに、特に工業生産物の特徴について示し、その後の明治期におけるたたら製鉄業の盛衰と地域の変貌を中心に検討する。これらの史料３点は、小物成の名称や数値が必ずしも一致しておらず、関連性について若干の問題があるが、これらの史料を利用することで、村浦の産業の特色を指摘することができるという点について有効であり、数値の相違を了解した上での指摘であることを予め断っておく。

また、上記史料を分析するにあたり、浜田藩領の村浦の位置に関して図１及び図２を本稿の末尾に示した。地図上には村名と村番号を付し、おおよその位置が分かるようにしている。分析で利用する表には、地図上の村番号を示し、地図上の村浦の位置を把握しやすくしている。

2．明治初年石見地域（浜田藩領）における工業生産物の特徴

「明治二年町浦巳小物成浮役諸運上根帳　貳冊之内附録」の巻末に「明治二巳年小物成諸運上惣括帳」が綴じ込まれており、浜田藩領における小物成運上が記されている。小物成運上の品目別に税額を概観すると、表１にみえるように、「薪銀」が最も高いことがわかる。注目されるのは、「鈩籠」、「小鉄運上」、「鈩山」、「鉄穴」、「鈩役」、「恵口鈩并鍛冶屋冥加」といったたたら製鉄業に関係すると考えられる税が上位を占めていることである。関係すると考えられる項目の税額を合計すると約 36 貫 294 匁になり、浜田藩領での小物成運上中、大きな位置を占めているといえよう。また、「出入津請役」、「廻船」といった海運を利用した流通に関係すると思われる税も上位にある。

手工業では、「蝋板場」、「大工」、「木挽」、「桶屋」、「丸物」、「瓦」、「製紙」、「畳表」などの税がみられ、漁業では「鰯網」、「大敷（網）」、「干鰯」などがみられる。

これらの品目は、あくまでも税額であり、生産、販売を示すものではないが、それぞれの産業の隆盛を示す一指標として有効であると考えれば、たたら製鉄業が大きなウェイトを占めているといえよう。以下、たたら製鉄業の小物成運上など主たる品目を検討する。

---

[1] 神山典之「古田重治浜田入府の石高について」『亀山』第 28・29 号、浜田市文化財愛護会、2002。

２．１　たたら製鉄業に関する小物成運上の地域別分布

石見地域におけるたたら製鉄業に関しては、各地域の市町村史などに記載がある[2]。

元和５年（1619）段階での小物成では、鈩役や鉄穴役が課されており、邑智郡内の矢上村、中ノ村、井原村、市山村、日和村、八日市村、亀谷村、出羽村、高見村、市木村、因原村、鹿賀村、田津村、八色石村、布施村があがっている[3]。いずれの村も山間部に位置しており、たたら製鉄業が、この時期に既に産業としてあったことがわかる。

表２では、「明治二年巳小物成浮役諸運上根帳　七組之内第一」及び「同　七組之内第二」から鈩山運上を示した。表２によると、鈩山運上は、邑智郡日和村 293 匁８分３厘、田津村 342 匁７分２厘、中野村 280 匁５分、市木村１貫 989 匁２厘、上田所村 877 匁２分、下田所村 805 匁８分とあり、これらの村々に課せられた税額が他村と比較して高い。特に市木村、上田所村、下田所村は、際だった税額である。矢上村は、56 匁１分と比較的低い税額であった。鈩吹運上は、表３でみられるように、そのほとんどが邑智郡の村々で占められている。特に高い税額であったのは、那賀郡南川上村の恵口鈩で 657 匁９分、邑智郡市木村で鈩２ヶ所分 328 匁９分５厘、同郡上田村で銑押鈩３ヶ所分 367 匁２分、同郡鱒渕村で鍛押鈩２ヶ所分 279 匁４分８厘、那賀郡黒沢村で鈩２ヶ所分 300 匁であった。注目すべきは、大半が銑押鈩と考えられるが、鍛押鈩も存在していることである。鍛押鈩は鱒渕村とその近隣の井原村であった。井原村は、銑押鈩と鍛押鈩が混在している。なぜ、この２ヶ村に鍛押し鈩が操業するのか、その背景については、現時点では史料の不足により明確には出来ない。今後の課題である。

鈩籠運上は、表４に示した。何れも邑智郡で、矢上村にほど近い市木村、井原村、因原村、中野村、日和村、鱒渕村での鈩に課せられている。そのなかでも中野村門谷鈩の課税額が３貫 455 匁７分６厘と最も高い。また、市木村烏兎鈩には１貫 256 匁６分４厘、鱒渕村鱒渕羽下鈩には１貫 335 匁１分８厘と比較的高い税額が課されている。また、納人は、矢上村出身者が目に付く。しかし、矢上村における鈩籠運上はみえない。

鉄穴・砂鉄運上については、表５にみえるように、那賀郡と邑智郡の村々で課されているが、矢上村が２貫 110 匁９分２厘と圧倒的な運上額を占めている。小鉄運上については、表６にあるように、浜砂鉄もあった。折居村浜砂鉄や石見東部の海浜部、江川水系、出雲西部（田儀櫻井家）の鈩場で利用された日脚村産浜砂鉄に関連して課税されたが、矢上村ほどの税額は課せられていない[4]。矢上村における鉄穴流しの隆盛が想定される。

小割鍛冶屋運上では、表７にみえるように、ほとんどが邑智郡の村々であり、その中でも注目されるのが市木村に小割鍛冶屋４ヶ所分567匁１分２厘が課せられている点である。その他にも邑智郡井原村、因原村、中野村、日和村、上田所村など鈩操業が行われている可能性の高い村々には、小割鍛冶屋が設置されていたようであり、税額が計上されている。那賀郡では南川上村恵口鈩の附属鍛冶屋へ課税されていた。また、美濃郡上道川村にも小

---

[2] 『江津市誌』上巻、1982、『桜江町誌』上巻、1973、『石見町誌』下巻、1972、『川本町誌』歴史編、1977、『羽須美村誌』上巻、『瑞穂町誌』第１集、1964、『邑智町誌』上巻、1978、『大和村誌』上巻、1981、『浜田市誌』上巻、1973、『都野津町誌』、2001、『金城町誌』第６巻、2003、『三隅町誌』1971、『弥栄村誌』1980、『美都町誌』1968、『益田市史』益田郷土史矢富会、1963、『石見匹見町史』島根郷土史会、1965 など。

[3] 註１論文など。

[4] 日脚村産浜砂鉄については、森山一止「史料から見た「ヒナシ」について」『たたら研究』第 43 号、2003、小島俊平『近世・石見の廻船と鈩製鉄』石見郷土研究懇話会、2010、拙稿「藩領をこえるたたら製鉄業経営」『平成 23 年度石見銀山遺跡関連講座記録集』島根県教育委員会、2012 などを参照されたい。

割鍛冶屋2軒分 269匁2分8厘が計上されている。

また、鉄加工製品である針金・釘鍛冶屋・稲扱運上については、表8にみえるように、針金・釘は邑智郡上田所村、上亀谷村、井原村という隣村同士において鍛冶屋があり、課税があった。また、邑智郡信喜村にも鍛冶屋があり、課税されている。那賀郡千田村では稲扱に課税された。

以上のことから、明治2年（1869）段階において、たたら製鉄業関係の小物成運上は、その大半が邑智郡の村々で占められていることがわかる。特に鈩山・鈩・鍛冶屋（大鍛冶場）では、市木村、上田所村、下田所村、鱒渕村、井原村、中野村など一つのエリアでくくられる地域で課税がみられる。そのエリア内で矢上村は、鉄穴・砂鉄運上が高額であることから、鉄穴流しの盛んな村であることがわかる。また、鈩操業に関わる者も排出している。これらの特徴は、神山氏の指摘する元和5年（1619）段階の小物成の状況が幕末まで継続している可能性を示している。

たたら製鉄業に関する運上は、近世を通じて重要な税目であり、裏を返せばそれだけ隆盛であった産業と推測できる。

2．2　瓦・丸物（粗陶器）に関する小物成運上の地域別分布

石見地域の近世後期から近代にかけての工業産物といえば、瓦や丸物があげられる[5]。元和5年（1619）段階での小物成では記載がなかった産物である。表9の瓦師運上では、本明村、千田村、嘉久志村、都野津村、神村、神主村、敬川村、高田村、久代村、日和村、西村、浅井村、長沢村、生湯浦、福浦において課税がみられる。特徴的な点は、日和村を除き、生湯浦、福浦をはじめとして海浜部に集中していることである。

丸物運上は如何であろうか。表10によると、本明村、千田村、嘉久志村、高田村、久代村、長沢村においては、表9で示した瓦師運上が課せられた村々と村名がかぶっている。また、表9で瓦師運上を課せられている浅井村は、表11にあるように丸物焼冥加も課せられている。丸物も海浜部に集中している特徴があり、しかも、瓦と丸物が同じ村で生産されている場合もあることがわかる。

また、那賀郡長浜村は人形の生産地であるが[6]、表10にみえるように「焼物人形細工師」として小物成運上が課せられている。

2．3　製紙に関する小物成運上の地域的分布

前述の瓦・丸物とともに石見地域の近世後期から近代にかけての産物といえば、製紙であろう。石見地域の多くの市町村史で取り上げられている[7]。

元和5年（1619）段階での小物成では、「かみ舟役」とあり、那賀郡宇野村、姉金村、大津村、千田村、有福村、邑智郡簗瀬村に記載がある[8]。

表12では、紙漉船運上を示した。那賀郡、邑智郡、美濃郡の村々46ヶ村に課せられていることがわかる。元和5年（1869）段階で記載のある宇野村、上有福村、下有福村、千田村などがみえるが、特に紙漉船の艘数の多い村が、美濃郡で澄川村117艘、広瀬村70艘、

---

5 『浜田市誌』1973、『都野津町誌』2001、『弥栄村誌』1980など。

6 註5『浜田市誌』。

7 『桜江町誌』上巻、1973、『石見町誌』下巻、1972、『川本町誌』歴史編、1977、『羽須美村誌』上巻、1987、『邑智町誌』上巻、1978、『浜田市誌』上巻、1973、『金城町誌』第6巻、2003、『弥栄村誌』1980、『美都町誌』1968、『益田市史』1963、『石見匹見町史』1965など。

8 註1論文。

内谷村 26 艘、那賀郡で跡市村 17 艘、邑智郡で小田村 28 艘、市山村 25 艘であった。元和 5 年段階との違いは、元和期には課税対象の村は那賀郡が多かったが、明治 2 年段階では那賀郡 13 ヶ村、邑智郡 19 ヶ村、美濃郡 14 ヶ村となり、邑智郡、美濃郡の多くの村々でも製紙について課税されており、各郡への製紙業の普及が推測できる。特に美濃郡は各村の紙漉船が多く、製紙業の隆盛がみてとれる。

表 13 は、半紙運上を示している。那賀郡、邑智郡、美濃郡の村々で課税されており、宇津井村、千田村、跡市村、南川上村、市山村、鹿賀村、因原村、下口羽村、澄川村、道谷村、内谷村、西村は紙漉船運上と重複している。半紙を比較的大量に上納している村々は、跡市村 330 束、市山村 180 束、矢上村 150 束、長浜村 300 束、松原浦 240 束、浜田八町 300 束、益田村 660 束、津田村 330 束、仙道村 270 束であった。村名は判明しないが、三隅組では 73 人が半紙 2790 束を納めていたことも付け加えておく。

2．4　浦方における流通に関する小物成運上の地域的分布

元和 5 年（1619）段階の舟役では、木部浦、津田浦、中津浦、下本郷浦、湊浦、浜田浦、長浜浦に記載があり、水夫役は、松原浦、津間浦、湊浦、浜田浦、長浜浦で課されていたことがわかっている。

表 14 では、出入浦運上、すなわち水揚積出場諸運上を示した。表 14 によると、浜田周辺の松原浦・外之浦では約 8 貫 587 匁、浜田浦で約 7 貫 904 匁、長浜浦で約 6 貫 969 匁、益田七ヶ浦で 4 貫 590 匁、三隅五ヶ浦で 1 貫 530 匁とあり、浜田周辺において税額が一際高い。すなわち、浜田周辺の物量規模の大きさがうかがえよう。

廻船運上については、表 15 に示した。30 ヶ所の浦々中、東の和木浦から西の中須浦まで 20 ヶ所の浦々で課税がみられ、表 14 でみえる松原浦、浜田浦、長浜浦にも課税されている。特に税額が高いのは、東から都野津浦、波子浦、浜田浦、湊浦、中須浦、遠田浦、津田浦であった。

3．明治期における産業の盛衰

本章では、明治期に入り、前章で取り上げた産業がどのような変化をとげていくのか、その盛衰を概観する。

3．1　たたら製鉄業の盛衰

近世期～明治期における石見国のたたら製鉄業の状況について、以下の記述が注目される。

鉄、鋼、鉧、銑

（前略）石見国ニ在リテハ邑智、那賀二郡ヲ主トシ、其採取ノ起源ハ詳ナラスト雖モ、凡ソ正保年間ヨリ寛文、元明年間ニ於テ起業シ、漸次増発シ、元禄、天保年間ニ於テ最モ隆盛ヲ極メ、旧浜田、津和野藩ニ於テモ亦大ニ之カ奨励保護怠ラス、製品は北国、九州ニ販路ヲ有シ、一時輸出額ハ九万円に上リシコトアリト云フ、然ルニ之亦洋鉄ノ輸入ニヨリ大打撃ヲ受ケ、収支相償ハス、相次テ廃業者ヲ見ルニ至レリ、県ニ於テモ之カ挽回ニ鋭意奨励ノ途ヲ講セシト雖モ、今尚盛況ニ復スル能ハス、極メテ微々タル状況ニ於テ漸ク其命脈ヲ保チツヽアルニ過キス（後略）

（「重要消費の状況」『各府県重要商品調査報告　附産業概況』農商務省商務局、明治 44 年（1911）、国立国会図書館所蔵。以下、『各府県重要商品調査報告』と記す。）

上記史料によると、石見地域の邑智郡、那賀郡を中心に操業していたたたら製鉄業は、元禄、天保年間に盛んとなり、販路は北国、九州にまで及んだが、洋鉄輸入の影響を受け

廃業する者が多く、細々と事業が継続されているとある[9]。

しかし、出雲地域では、明治期に入っても、旧来からの田部家、櫻井家、絲原家の経営が継続し、明治17年(1884)から海軍工廠への販売を主として、日露戦争(明治37年(1904)～38年(1905))には利益をあげている。しかし、輸入鉄との競争は避けられず、価格を下げることができず、海軍需要も減り、経営的に厳しい状況となった[10]。

確かに、表16でみられるように、明治38年(1905)からの統計では、生産量が徐々に落ち込んでいき、精錬場も同40年(1907)から減少している。同42年(1909)には、精錬場、生産量とも大幅な落ち込みとなってしまっている。

『島根県産業案内』(島根県内務部、明治45年(1912)、島根大学附属図書館所蔵)から、明治43年(1910)における島根県内10人以上使役工場のなかでたたら製鉄業の占める割合をみてみると、島根県内114ヶ所の工場の総生産額は2485431円で、その内たたら製鉄業に関する工場の生産額は65900円ほどであり、全体の2.65%にしか過ぎなかった。たたら製鉄業での生産に関して石見地域と出雲地域では、表17にみられるように、出雲地域における生産が圧倒的で、石見地域では、わずかに邑智郡口羽村の「鈩」1ヶ所、生産量3570貫、生産額375円のみであった。雇用者数も石見地域では11人であり、出雲地域の335人とは大きな差である。島根県全体として、たたら製鉄業での生産は減少しているが、石見地域においてはそれが顕著である可能性が高い。石見地域でのたたら製鉄業の衰退が、沿海部、石西内陸で早く、明治中期以降は石東内陸の邑智郡だけに限られていくが[11]、表17における石見地域での状況は、まさにそれであろう。

3．2　たたら製鉄業の衰退と村々の変貌

次に、かつてたたら製鉄が盛んであった邑智郡矢上村、田所村、三原村について、各村の明治期に入ってからの状況を『農事調査報告書』(島根県農会、島根県立図書館所蔵)でみることにする[12]。矢上村、田所村、三原村の『農事調査報告書』の比較については、既に伊藤康宏氏により詳細な検討がなされている[13]。よって、伊藤氏による研究成果を参考にしつつ、ここでは、たたら製鉄業に関心を絞って検討する。

3．2．1　邑智郡矢上村の変貌

まず、邑智郡矢上村の検討を行う。以下に『島根県邑智郡矢上村農事調査報告書』で、たたら製鉄業に関わる記述をあげる。

①総論之部　●第二、沿革

(中略)而して本村には往古より砂鉄採取の業盛に行はれ、村民の大部分は専ら之に依て生活し、耕宅地増加の原因も主もに之に基せり

②参考之部　●第十三、重要農作物　▲二、稲作　○沿革

本村の米作は遠く千二百年前に創始されりと云ふ、今より百二十年前の頃は村内に於て製鋼業殷盛にして為めに砂鉄運搬等に使役したる駄馬二百頭ありて多量なる厩肥を産

---

9 『各府県重要商品調査報告』は、明治44年(1911)段階での情報を記したものであり、明治期はともかく、近世期の状況については、さらに調査、分析が必要である。しかし、近世～近代の大まかな状況をみることはできるのではと考えている。

10 註9『各府県重要商品調査報告』

11 加地　至「明治期島根県石見地方における在来製鉄業の地域的特質」『地域地理研究』第9巻、2004。

12 『農事調査報告書』の調査年は、それぞれ、矢上村：明治34年(1901)、田所村：明治36年(1906)、三原村：明治35年(1902)である。

13 伊藤康宏「近代島根県における中山間地の農家・農村の経済構造―島根県邑智郡3か村『農事調査報告書』の比較検討―」『島根大学生物資源学部研究報告』No.11、2006。

し、又是等駄馬が毎日帰途の便に鑪山より多量の笹、草類を採取し総て稲作の肥料となせしを以て米の生産額多かりしが文化十年の頃（九十年前）は米の販路に窮し、富籤流行し、一方製鋼業も漸々衰況を呈し、天保四年の頃（七十年前）は盛に雲、備、地方へ砂鉄採取に出稼するもの多く、其収入する金額も多額なりし為め米作を重んずるの念薄らぎ減収を来せり、然れども明治五六年の交は他村へ売出す米も一時多量なりしと雖ども、翌年春季に至れは他村より米を購入せしこと屢々あり、十年の頃より麦、粟、甘藷等雑食物の収穫多量となりし為め米の費消を減じ、出稼も其数を減じ米穀の販路も拡張し、次第に米作を重んずるの念を惹起し、明治十四年の頃より干鰛、油粕等諸種の肥料を購入して使用するに至り、又米価も騰貴して愈米作を重んずるに至り、従つて其産額を増すに至れり（後略）

③参考之部　●第十三、重要農作物　▲三、麦作　○沿革

麦作の始は知るに由なしと雖ども、今を去る四五十年前は砂鉄採取に雲備地方へ出稼するもの年々数百人何れも秋稲収穫后間もなく家を出で春は稲苗代を整地するの間際に帰郷するの有様にして其儲金は多額にして本村の米価又低廉なりしを以て全体の農作に重きを置かず、従て麦作の如き誠に微々たるものなりしが、明治二年非常の凶作を来し人民一般飢餓に迫りしより頓に麦作反別を増し加ふるに出稼も漸々好望ならず、愈米麦作に重きを置くの念を生せり、而して明治五六年の頃より漸々焼土の製造行はれて為めに大に肥培に資し、明治十年の頃より一層麦作を励み、収穫も多く品質も優良なるものを生産するに至れり（後略）

④参考之部　●第十四、林業

本村の土地十分の六七は山林に属し、往昔は製鋼業甚だ盛にして当時全村山林の七八分は殆んど鑪山なりし

鑪山は其立木を木炭に製し製鋼に消耗するなれば、或年限間は保護を加へて造林し、順次に伐採せしを以て常に其大半は雑木林を見しも漸々製鋼業の衰微と緑肥として柴草を多量に採取するの必要を感じたる（こ脱ヵ）とにより、皆伐せる無毛の鑪山を買入れて共有林となし、旧来の柴草山と共に各戸自由に柴草の採取を許せり、以来保護を加ふるものなく濫伐を事とせし、結果山林は次第に荒廃せり（後略）

⑤参考之部　●第十五、畜産

馬は、今より百二十年前の頃は村内二百頭を飼育しありしが、鉄の運搬用の減せしよりに次第に其数減少し、今纔に二頭を飼養するのみ、何れの時代に於ても駄馬として使用せり

牛は古来より飼養され、主として田地の耕鋤に使用し、農閑の時には運輸の事に使役せり馬を多数飼養せし、当時は牡牛を主として養ひ、専ら耕牛となせしが、馬の数を減すると共に稍牝牛の飼養に傾き、農耕、運輸に使役するの傍ら繁殖を図りて利益を見んことを企つるに至れり、本村に於ても明治廿七、廿八年は種牛購入資金を無利息にて貸付し、以て斯業の発達に勉む（後略）

矢上村では、①で村民の大半が砂鉄採取を生業としていることがわかる。これは、前章でみたように、矢上村の鉄穴・砂鉄運上が他村と比較して圧倒的に高かったことと符合している。②で、天明期頃にはたたら製鉄業の砂鉄運搬のために 200 頭もの馬が飼育されており、大量の厩肥が産出され、馬の鈩山から帰途のおりに採取する笹、草類とともに稲作

の肥料となっていき、それが米の生産量を支えているという状況があった。しかし、文化10年（1813）頃には、米の販路に困り、たたら製鉄業も衰退していき、天保4年（1833）頃には、生活の糧を得るため、砂鉄採取の技術を活かして雲備地方へ出稼ぎにいくことが多くなり、その収入も多額であった[14]。雲備地方への出稼ぎについては、③で、「年々数百人」が秋の稲収穫後に出稼ぎに出て、春の稲苗代を整地するまでに帰郷する形態であった[15]。

そのため、②で、米作を軽んずる人々も出現し、減収となったが、明治10年（1877）頃よりは出稼ぎも減少して米作に力を入れるようになったようである。

このように、矢上村周辺のたたら製鉄業の衰退が出稼ぎを生み、その後の明治期におけるたたら製鉄業の衰退が、出稼ぎの減少となり、米作への労働力投下につながっていくという流れがみてとれる。

たたら製鉄業の衰退は、山林にも影響を及ぼしている。④によると、矢上村は土地の6～7割が山林で、その7～8割は鈩山であった。鈩山では大量の立木を製炭し、たたら製鉄の原材料として消耗するので、造林など保護を加え、計画的に伐採していったが、たたら製鉄業の衰退と緑肥として大量の柴草を必要としたこともあって、立木を全て伐採した鈩山を購入し、芝草のみの採取に特化したため、以後保護せず、濫伐が相次ぎ、山林の荒廃が進んだようである。

馬についても変化があった、⑤によると、鉄の運搬用に村内で馬を200頭も飼育していたが、たたら製鉄業の衰退により運搬量が減少し、それにともない馬頭数も減少していき、明治34年（1901）には2頭のみとなってしまったようである。そのかわりとして牝牛の飼育が増加していった[16]。

3．2．2　邑智郡田所村の変貌

次に田所村については如何であろうか。田所村は、前章の小物成の分析では、上田所村に4ヶ所、下田所村に5ヶ所の鈩山があり、高額の鈩山運上が課せられている。また、上田所村で操業している青松鈩、上田所・下田所両村にある小割鍛冶屋にも課税がみられた。このように、たたら製鉄業の盛んな村であったことがうかがえるが、以下に『島根県邑智郡田所村農事調査報告書』に記載されているたたら製鉄業関係の記述をあげる。

①参考之部　●第十六、重要農産物　▲二、稲作　●沿革

本村の米作は漠として其創始の年代を知るに由なしと雖も、古昔より栽植をなせしことは疑ふ可らず、而して本村の南北及西方を周囲する一帯は山岳なるを以て、古来銑鉄製造業盛に行はれ、稲作は盛ならざりしと雖も、近来該業衰廃して稲作大に発達し、尚中央出羽川沿岸は土地肥沃なるを以て稲其主作物にして、肥料は主として山野の草萊を刈取りて施用せしが、近時工業進歩発達するに伴ひ出稼人多く、労力の次第に不足となり、山野の雑草を利用すること少く、従つて土地生産力減退の憂たりしが、近時干鰮若くは人造肥料の施用盛となりて、地産力を補ふを以て未だ産額減少の憂なし

---

14 かつての出稼ぎの影響であろうか。『島根県邑智郡矢上村農事調査報告書』の「参考の部　●第三、農民労働の状況　▲一、労働に対する観念」では、「本村農民は、一般労働に勤勉にして他意なしと雖ども、現今の青年輩に至りては、漸く労働を厭ふもの排出し、農家の子弟にして職工となり、或は出稼をなすもの多きに至れり」とあり、若者の間で職工や出稼ぎが多いとある。

15 矢上村の鉄穴流しによる出稼ぎについては、石井出かず子「明治・大正期の石見町に於ける炭鉱出稼ぎの前史として石見町の地域性と出稼ぎ」『島根近代史研究会会報』第10号、1987を参照されたい。

16 たたら製鉄の衰退による馬頭数の減少と牛頭数の増加については、出雲地方での分析であるが、板垣貴志『牛と農村の近代史　家畜預託刊行の研究』思文閣、2013に詳しい。参考にされたい。

②参考之部　●第十六、重要農産物　▲二、稲作　●本田整地施肥

（中略）施肥は前期の如く可成多量の笹柴草等を刈り入るゝものなれば、各自の労働力に依りて大に差あり、然れども田地を耕作するものにして笹柴草を施さゝるものなしと云ふも不可なし、故に笹芝草山を所有せさるものは、他より買求めて施用す、其量一反歩大凡百貫目乃至二百七八十貫目なり、尚村内或る一部落には、鑪山と称し広大なる山林ありて笹繁茂すれども、亦或る一部落には乏しき処あり、然れども古来の慣例として所有者の如何に拘はらず笹草少なき部落の人民が無償にて茂生せる鑪山の笹草を刈取ることを得、故に此時期には数十町を遠しとせず刈取に趣く、前述の如く笹は必ず施さゝる可からざるの習慣あるを以て、肥料中比較的最高値なるものとなす（後略）

③参考之部　●第十七、林業

本村は、土地凡百分の六十五は山林に属し、昔時は製銑業盛にして、山林の大部分は大概鑪用木炭山に供せしが、今は製銑業衰微して、木炭は広島地方に輸出し、一部は隣村の銀鉱に輸出せらる、山林は古来二三の富豪の所有に属し、時々其所有者に異動ありと雖も、旧時の鑪山は依然大面積をして分割せずして唯天然に委する雑木林たるのみ、而して山林の一部鑪山に属せざるものは、旧時入会山と称し、之に属する部落の人民自由に入り込みて薪材及芝草を採収し居りしもの、明治十二年地租改正と共に一部分を戸別に一部分を田畑宅所有面積に割当し、各自の所有に帰せしより互に保護に勉めたる結果、良薪材を得、且喬木材を仕立つるに至れり（後略）

④参考之部　●第十八、畜産

馬は旧爐業盛なるとき運搬用として各部落二三頭つゝ飼育し居りしも、今は道路改修の為め荷車を用ふるに至りてより飼育せざるに至れり

牛は古来より飼養し、主として田地の耕作用に供し、山間部に於ては犢牛産出の目的を兼ね牝牛を飼育し、平原部は耕鋤も較々困難なるを以て牡牛を飼育し居りしが、近時牛畜の需要益盛となり、其利益の多きに至りたれは、山間部に於ては飼育し、安きを以て一家二三頭の飼育をなすもの多く、平原部と雖も漸次牝牛を飼育し、犢を産出するに至れり（後略）

①によると、田所村は、山岳地帯で、古くからたたら製鉄業が盛んで、逆に稲作はあまり行われなかったが、たたら製鉄業が衰退、廃業していくと稲作が大きく発達したとある。この点は、矢上村と類似していると考えられる。しかし、後に工業の発達により、出稼ぎが多くなり、稲作に関わる労働力が不足し、生産力が減少していったようである。

②は、鈩山の利用についての記述だが、古くから肥料として利用する笹については、地域によって刈取量の差が生じる。笹草の繁茂していない地域は、鈩山において無償で刈り取ることができるとあり、肥料の均等な利用を鈩山が担っていることがわかる。

③によると、山林については、村内の土地の6割5分は山林で、たたら製鉄業が盛行であった時は、その大部分を鈩用の木炭として供出していたが、たたら製鉄業が衰退すると、木炭を広島地方へ輸出するようになり、一部は近くの銀鉱山に供給するようになったという。これは、たたら製鉄業の衰退にともなう木炭販売先の開拓と考えられ、木炭業の維持及び発展を示唆するものといえる[17]。

④によると、馬については、かつてはたたら製鉄業に関わる運搬用の馬を各部落2～3頭

---

17 島根県におけるたたら製鉄業の衰退と木炭業の発展については、相良英輔「島根県における木炭業の展開」『島根史学会会報』第28号、1995を参照されたい。

ずつ飼育していたが、道路改修により馬の飼育を止め、荷車を用いるようになったとある。牛は、牛畜の需要益盛にともない、牝牛の飼育が増加した。

以上、田所村の状況を検討した。ここで指摘した点は、矢上村の特徴と類似している。

３．２．３　邑智郡三原村の変貌

三原村は、近世期には銀山領であり、前章の浜田藩領の検討範囲から外れている。しかし、後述する①の史料のように、往古より砂鉄採取が盛んで、大半の村民が砂鉄採取によって生活していることから、矢上村と近世期からの村の生業が類似し、たたら製鉄業を生活の基礎においている村であるので、そのような村がどのような変貌をとげていくのか、あえてここで取り上げてみることにする。

以下に『島根県邑智郡三原村農事調査報告書』から、たたら製鉄業関係の記述をあげる。

①総論之部　●第一、地理及沿革

（前略）本村は、往古より砂鉄採取の業盛に行はれ、村民の大部分は之に依て生活し、耕地は多く砂鉄採取地の跡なりとす

②参考之部　●第一、地主と小作人との関係

（前略）本村は、二百余年前より明治二十年の交に至るまで鉄業に依り生計をなすもの大部を占めたるため、其余弊布ひて今尚ほ農事の改良普及せず、亦一般に労働に勤勉ならず、害虫駆除予防をなすときは、地主は駆除油を供給し、小作人をして駆除をなさしむ

③参考之部　●第四、農民労働の状況　▲一、労働に対する観念

本村は、古来鉄業に従事せしもの多く、従つて一般に懶惰の風あり、就中農労働を嫌ふの傾向あり、近時鉄業の廃止後、稍其風を改めしも因襲の久しき総ての労働に勤勉ならず

④参考之部　●第七、金融

本村は、古来砂鉄製鋼の業行はれ、当時は金融一般に宜しかりしも、明治廿三年頃より斯業廃絶に帰し為めに村内の経済は疲憊の状に陥れり

本村は、現今米作を主とする農村にして常時の収入頗る少なきを以て金融の緩慢なる時期は十月より一月頃まてとす、之れ秋収の後なるが故なり、其他の時期は一般に金融逼迫す、近時養蚕の収入漸次増加するも、未だ一般に其利益を獲得するに至らず（後略）

⑤参考之部　●第十五、重要農作物　▲二、稲作　●沿革

稲作は、従来晩稲（有芒種）霜かづきを栽培せしも、近来は漸次中稲（無芒種）の稍早熟なるものを栽培するに至れり、本村は前諸項に陳べたるが如く、二百年前より鉄業の盛なりしため村民の多数は其原料の産出及運搬に従事し、農作は等閑に付し来りしが、鉄業廃止後は自然の必要に駆られ、従来に比し稲作を重んずるに至れり

明治廿一年林遠里氏を招聘し、村内各大字に模範田を設置したり、又廿五年には、齋藤勝廣氏の巡回講話を請ふ等専ら奨励を加へし結果、大に米作改良の注意を喚起し、爾来村役場及村農会等に於て改良法の普及上進を図りたるも、未た顕著なる成績の見るべきものなきは常に遺憾とするところなり（後略）

⑥参考之部　●第十七、畜産

牛は、古来より飼養し、往時は主として鉄業原料運搬のために使役したれども、近来は耕作用のためにするもの大部分を占め、農閑の時運輸の業に使役す（後略）

⑦参考之部　●第十八、林業

（前略）山林は総て天然林にして其大部分を占むる雑木山は、往昔より薪炭用として濫伐に一任し、用材林も亦数年前価格騰貴せし際、濫伐を極め曾て保護方法の施設なし

木材販売の市場は、主に温泉津港及江津港にして、本村より之等各港に通する改修道路の全通せさるため、総て牛背に依り運搬し、温泉津港へは直接に又江津へ販売するものは隣村川下村及谷住郷村の郷川沿岸まて運搬するを要し、大に不便を極む

①では前述したように、砂鉄採取すなわち鉄穴流しが盛んであったことがわかるが、注目されるのは、砂鉄採取地の跡に耕地ができているということである。実際、たたら製鉄業は、②、④で 200 余年前、すなわち元禄期頃より始まり、明治 23 年（1890）頃に廃絶したとある。④によるとたたら製鉄盛業期は、金融もよかったが、廃絶後は厳しい状況となった。人々は、②、③より、たたら製鉄業を基盤とした生活が大半を占め、農業労働を嫌う風潮があり、たたら製鉄業廃絶後もその傾向は残ったようである。しかし、⑤によると、たたら製鉄業の廃絶後は、生活の糧を別の生業に求める必要にかられ、以前よりは稲作に力を入れるようになっていったが、顕著な生産量をあげるところまではいっていないようである。このように、たたら製鉄業衰退後の村民は、はからずも生計を立てるために稲作へ傾いていったことがわかる。その動きが①でいう砂鉄採取跡の耕地化であろう。

⑥では、たたら製鉄業に関わる原料の運搬に牛を利用していたことがわかる。しかし、たたら製鉄業廃絶後は、その大部分が耕作用として飼育されており、農閑期に運輸業務を行うようである。表 18 によると、耕作用の牛は 123 頭飼育され、駄賃用の牛は牡のみで 13 頭ほどであった。搬送する商品は木材と推測される。⑦によると、木材を牛の背に載せ温泉津港へ運び、また、江津へは江の川の水運で運んだが、江の川沿岸の川下村、谷住郷村までは牛で運んだようである。

３．３　瓦・丸物（粗陶器）の製造

『各府県重要商品調査報告』の「瓦」の項では、「出雲瓦ハ黒色ニシテ其質稍弱ク、石見瓦ハ赤釉ヲ施シ、其質堅強能ク霜雪ニ耐ユルヲ以テ需要多シ」、「主産地ハ黒色瓦（出雲瓦）ハ八束、簸川両郡、赤色瓦（石見瓦）ハ那賀、邇摩両郡ニシテ、黒色瓦ハ県内及隣県ノ消費ニ止マルモ、赤色瓦ハ日本海沿岸地方、北海方面ニ販路ヲ有シ、年々販路拡張セリ」とあり、明治 40 年代の石見瓦は、那賀、邇摩両郡で製造され、霜雪に強いため需要が多く、製品の特質により流通範囲は日本海沿岸地方、北海方面と多岐にわたった。また、石見地域で注目すべき生産者・販売者は「邇摩郡五十猛村　清水武十郎」、「那賀郡石見村字長沢千代延啓市」があげられている。

石見地域の丸物については、同上史料「陶器」の項によると、「石見焼ハ粗陶器ニ属シ、火鉢、磨鉢、壺等日用ノ雑具類ノ安価ナルモノナリ」、「石見焼ノ起源ハ詳カナラサルモ、天保年間以後ナルカ如シト云フ」、「石見焼ハ北陸、北海道、九州、朝鮮方面トス」、「石見焼ハ浜田船側渡代金計算ハ、二月或ハ六箇月計算ニシテ、時ニ荷為替付取引アリト云フ」などと関連した記述があり、石見焼の起源は、天保年間から始まるといわれるが、起源は不詳であり、製品は粗陶器（火鉢、磨鉢、壺等日用雑具類）で安価である。製品は、浜田船により北陸、北海道、九州、朝鮮方面に搬送されることがわかる。

表 19 では、明治 43 年（1910）段階で、石見地域において 6 ヶ所の瓦・粗陶器製造工場があげられている。瓦・粗陶器生産総額は 35579 円、石見地域の工場総生産額は 726608

円で、石見全体の 4.9%を占めている。6 工場のうち、5 ヶ所が那賀郡石見村にあり、赤瓦のみの工場が 2 ヶ所、赤瓦と粗陶器の両製品の生産を行う工場が 3 ヶ所あった。残りの工場は、那賀郡江津村の泉陶器製造所で、粗陶器の生産に特化している。明治初年には、多数の村々で生産が行われていたようであるが、明治 40 年代には、比較的大量に生産する工場の立地は限られていったようである[18]。

石見地域では、赤瓦は生産量 635000 箇、生産額 13337 円であり、粗陶器は 889500 箇、22242 円で、粗陶器の生産が大きいことがわかる。石見村では、赤瓦が生産量 635000 箇、生産額 13337 円、粗陶器が生産量 249500 箇、生産額 6242 円で、赤瓦の生産に重点がおかれているが、江津村では赤瓦の生産は計上されず、粗陶器のみで 640000 箇、16000 円であった。

3．4　製紙業

『各府県重要商品調査報告』の「紙」の項では、「本県製紙ノ業ハ、殆ント農家ノ副業ニシテ、各季農閑ヲ利用シテ製造シ、四季絶ヘス製造ヲ為スモノナキニアラサルモ、其数閑散時期ヲ利用シテ製造スルモノニ比シ遙カニ少数ナリ、本県ニ於テ抄紙業ノ盛ナルハ鹿足、美濃、那賀、能義ノ諸郡ニシテ鹿足郡ハ各種ノ紙ヲ産シ邑智郡ハ主トシテ半紙ヲ製ス、古来ヨリ石見半紙トシテ市場ニ名声ヲ博スルモノハ主トシテ本郡産ノ半紙ナリ」とあり、製紙業は、ほとんどが農家の副業として農閑期を利用して行われ、石見では鹿足、美濃、那賀、邑智郡で製紙業があり、特に邑智郡の半紙が石見半紙として知られている。表 20 でみえるように、石見産紙に「イハミノクニヨシカ（石見国吉賀）」、「セキシウハマタカミ（石州浜田紙）」、「セキシウイチヤマカミ（石州市山紙）」とあるように、上述の郡内で製紙が盛んであったことがうかがえる。

販売先は、「本県産糸類ハ県内ニ於ケル消費額僅少ナラサルモ、広ク県下ニ販路ヲ有シ、年々大阪、広島、東京、山口、鳥取、北海道、北陸、朝鮮及岐阜方面ニ搬出ス」とあり、かなり遠方まで販路を拡大していったことがわかる。また、取引については、「県下仲買人ナルモノ各製紙家ノ自宅ニ付キ、之レヲ買集メ、荷造ノ上各仕向地ノ商店ニ送付ス」とあり、製紙家より生産された紙を仲買人が集め、各仕向地の商店へ送ることになっていた。

『島根県産業案内』では、「本県の工業は運輸交通不便の為、今日迄多くは県内顧客をのみ目的とした為め、従て紙と陶器を除ては工業と称すべき程のものはない。紙は出雲半紙・石見半紙、陶器は出雲焼・石見焼とて古くより唱へられて居つたが、前者は四十万円、後者は二十万円の産額を有して居る」とあり、製紙が陶器とともに、島根県の工業における主産業と考えられ、出雲半紙・石見半紙の生産額は合計で 40 万円ほどであった。

3．5　たたら製鉄業の衰退と町方商家の変貌

本節では、たたら製鉄業の衰退が、町方の商家にどのような変化を与えたか、その具体例を示す。

3．5．1　江津村商家の変貌

表 21 によると、明治 23 年（1890）の江津村及び近郷の都濃村における商家は 14 軒記載があるが、その内 10 軒が銑鉄の卸商であった。それ以外の 4 軒は、陶器の製造と卸商であり、近世末からの石見地域における特徴的な生産物である銑鉄と陶器の流通が江津村の

---

18 この地域において粗陶器の生産がみられるのは、石見村、江津村とも石見焼の模範工場があり、職工の養成を行っていたことが背景の一つとして考えられる（『島根県誌』島根県教育会、1923）。

大きな商業活動であったことがわかる。また、銑鉄卸商10軒のうち7軒は廻船業として営業しており、卸業務の他に水運を利用した運送業も同時に行っていたことがわかる。「島根県誌」[19]によると、江津村は「郷川ハ国中第一ノ大河ニシテ、備後、安芸ノ国境ヨリ来リ、此間頗ル舟運ニ便、其港亦タ碇泊ニ宜シク、石見焼陶器ノ産地ナリ。」とあり、水運、石見焼の隆盛がうかがえる。

明治44年（1911）の段階では、表22にみえるように13軒の商家があり、店舗数に大きな変化はないが、営業内容は、呉服関係2軒、食品・肥料・燃料（木炭卸売）1軒、雑貨1軒、銀行1軒、酒造1軒、醤油1軒、宿3軒、回漕業2軒であった。物資の流通を生業とする回漕業が2軒と大幅に減少していることは注目される。これは、たたら製鉄業の衰退が大きく影響していると考えられる。回漕業で取り扱う商品中、たたら製鉄による鉄は姿を消し、山間部から供給される木炭の卸売がみられるようになり[20]、粗陶器の流通が残っているといった状況ではなかろうか。

3．5．2　浜田町商家の変貌

表23によると、明治23年（1890）の浜田町及び近郷の石見村、長浜村、三階村、波佐村では、39軒の商家が記載されているが、呉服5軒、酒・醤油5軒、回漕業2軒、宿2軒、銀行2軒、海産物2軒、汽船会社1軒、新聞社1軒とあり、取扱商品は多岐にわたっている。その中で、特に注目されるのは銑・鉄の製造、取引に関わる商家で、9軒（全商家数の23.1%）であった。瓦を扱う商家は1軒、陶器を扱う商家は2軒あり、紙の仲買・販売は9軒あった。特徴的であるのは、番号1の浜田町で営業している卸商では、鉄・銑とともに、半紙、瓦、生蝋、扱苧、油も取り扱っている。番号37番の長浜村で営業している仲買商は、銑・鉄とともに陶器、半紙、生蝋、扱苧も取り扱っているのである。

商家数からみると、近世から続いた鉄の生産、取引は、明治20年代においても重要な位置を占めていたと考えられる。そして、鉄を取り扱う商家は、石見特産の瓦、陶器、紙も同時に取り扱っているのである。「島根県誌」[21]によると、浜田町は、「其ノ港ハ境、赤間関、大坂等ノ諸港ト船舶常ニ相往来シ、亦タ国内ノ良泊処ト称セラル、半紙、鉄類ノ輸出頗ル多シ。」とあり、船舶の往来が繁多で、大量の物の流れが想定でき、特に紙、鉄が浜田港からの主力輸出商品であったことがわかる。

明治44年（1911）になると、表24にみえるように158軒もの商家がみられ、明治23年の商家数を大幅に上回っている。営業内容をみてみると、明治23年（1890）に多かった鉄の取扱店は、わずかに1軒のみである。木炭の取扱店は2軒となっている。陶器については3軒と維持しているが、紙については5軒と減少した。逆に宿の経営は20軒、呉服・洋服類も20軒、醤油・味噌・酢類が11軒、酒類が8軒、薬が6軒と大幅に増加している。また、時計、靴、自転車販売などの新たな店舗も出現している。

このように、明治44年段階の商家では、明治23年段階の商家と比較し、軒数は大幅に増加したが、営業内容が大幅に変化していった。その変化の中で注目すべき点は、鉄の取扱店がほとんどなくなり、木炭の売買など多種多様な商家がみられるようになることであ

---

19 『日本全国商工人名録』日本全国商工人名録発行所、明治25年(1892)、国立国会図書館所蔵。

20 註17論文。

21 註19『日本全国商工人名録』。

ろう[22]。浜田町も、たたら製鉄業の衰退・廃絶の影響を大きく受けていたといえる。陶器、紙については、前述のように明治40年代も生産し続けているので、浜田町への粗陶器、紙の物流はあったと考えられ、それらを取り扱う商家もある程度維持できたと考えられる。

4．おわりに

以上、石見地域の中で特に浜田藩領を中心に、小物成運上より工業生産物について特徴を抽出し、明治以降の産業の移り変わりについて、特にたたら製鉄業の盛衰を核として、村々の変貌、町方商家の変化を検討した。

小物成運上にみえる近世末からの重要な工業生産物は、たたら製鉄業、陶器、製紙などであった。また、浦々での水運を利用した物流も富を生んでいた。

明治中期までは、近世からの産業が継続していったと考えられる。しかし、明治中期のたたら製鉄業の衰退・廃絶は、関連の村々に大きな影響を与えた。山間部では、収入の減少は免れず、生活の糧を求め、稲作などの農業が普及し、鉄穴流し跡は耕地となっていく。また、木炭業は、新たな販売先を模索していくことになった。そして、たたら製鉄業に関わった運輸業は衰退し、馬の飼育は激減し、牛の飼育にシフトしていく。運輸用で牛を利用している地域は、一部の牛を木材搬出用に残し、大半の牛を耕作用として飼育するようになる。

町方は、明治中期には、たたら製鉄で生産された鉄の流通を生業とする商家、瓦・陶器の流通を生業とする商家、紙の流通を生業とする商家が存在し、各製品をすべて取り扱う商家もあった。鉄、瓦・陶器、紙は商家にとって主力商品であったと考えられる。

しかし、明治末期には、たたら製鉄業の衰退・廃絶が大きく影響し、鉄の流通は激減し、陶器や紙が工業生産の主流となり、江津や浜田へ流れる物に変化が訪れ、商家が扱う商品も鉄はほとんどなくなり、木炭がみられるようになり、陶器、紙は残るが、その他に呉服・洋服、雑穀、酒・醤油類、薬など多岐にわたるようになる。また、旅館などのサービス業も普及している。

このように、たたら製鉄業の盛衰は、少なからず村方、町方に変化をもたらした。

しかし、本稿では、石見地域の産業について、ほんの一事例を紹介したにすぎない。近世においては、小物成運上における産業の特徴の一部を示したに過ぎず、生産量、生産額を示しているわけではない。また、水産業については検討が出来なかった。近代においても、重要産業である木炭業の具体的な発展過程については、課題として残っている。石見地域の産業全体を捉えていくためには網羅的な検討が必要である、課題は山積みであるが、牛歩ながらも他日に期したい。

【付記】　本稿の作成にあたって、松江市史編纂室職員和田美幸氏の多大なご協力を得た。記して感謝申し上げます。

---

22 註17論文。

表1 小物成運上項目別内訳

順位	項目	銀札(匁)	順位	項目	銀札(匁)	順位	項目	銀札(匁)	順位	項目	銀札(匁)
1	蔚銀	37707.804	26	紙船	563.3136	51	中網	112.1976	76	郷川渡船	30.6
2	出入津請役	28019.9664	27	干鯛	554.6016	52	御蔵所跡菜園地	108	77	鍬山	30.6
3	鉄籠	14804.7912	28	深山	539.4888	53	郷網	98.8976	78	板屋根師(水役)	30.2328
4	銅山歩一	13461.5016	29	鱈網	537.5448	54	魚築	93.8304	79	風呂屋株	27.7776
5	板場(蝋)	6862.0176	30	駒役銀	524.2392	55	鱈網	87.7176	80	松木十分一	25.8984
6	小鉄運上	6664.0176	31	丸物役	461.556	56	附船	87.6024	81	魚手銀	25.5024
7	鉛山	6453.4104	32	鰯網	350.892	57	地引網	81.6048	82	水車	24.516
8	地子銀	4303.2096	33	鍛冶屋山役	306	58	座役	78.6024	83	四ツ張	24.48
9	大工(水役)	3772.5912	34	塩浜	287.532	59	瓦屋根葺(水役)	78.0192	84	炭釜	16.3224
10	鉄穴	3769.056	35	麦代	285.9984	60	竪網	73.44	85	高網	16.3224
11	鉛役	3509.4528	36	質屋	280.0224	61	小波	73.1736	86	わかな	16.3224
12	木挽(水役)	2577.5568	37	山鳥	239.0472	62	塩釜	65.1672	87	鯛網	16.3224
13	山役	2166.3	38	川役	238.5432	63	糟	63.2304	88	裲裏	15.0048
14	廻船	2133.4752	39	船大工(水役)	229.0752	64	髪結	61.1424	89	郷川寄小鉄	14.94
15	大敷	2019.6	40	焼物	220.5864	65	線香役	59.9976	90	練物	12.24
16	小網	1995.1632	41	売薬	216.252	66	御林開作 岡見村之分	58.0032	91	下駄役	10.2024
17	酒造	1515.6432	42	板場	216	67	針金鍛冶	53.856	92	鰯網	10.1952
18	烏豆畑	1327.608	43	畳師	207.2808	68	糸網	48.96	93	店売	10.0008
19	小鍛冶	1068.3072	44	瓦	195.8184	69	宿屋株	46.3824	94	貝灰焼	7.9992
20	藍瓶	970.9704	45	吉舎炭	176.0472	70	温泉	43.8624	95	和布	6.4872
21	竹藪	889.02	46	松枝	175.4712	71	浜新開	43.8624	96	左官(水役)	5.0976
22	恵口鉛井鍛冶屋賃加	745.6176	47	釘地鍛冶	168.3072	72	浦役	42.4512	97	汕網	5.0976
23	水手	743.7096	48	浜役	133.0056	73	鉄砂蔵場	41.6376	98	船役	4.2768
24	桶屋(水役)	675.9216	49	椎茸役	122.3928	74	檜物師(水役)	39.4776	99	鶴子	1.0224
25	御林之内挂構地	614.3544	50	麹室	121.1976	75	菓銀	30.7944	100	政治(七嶋表49枚・半紙127丸)	

出典:「明治二年町浦巳小物成浮役諸運上根帳 貳冊之内附録」「明治二年旧浜田藩引継雑款」(県浜田引-02-018)、島根県立図書館所蔵。

表2 鉛山運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	銀札(匁)	項目	人数・個数	請負人	備考
跡市組	邑智郡	清見村	9	43.86	鉛山	1ヶ所		
跡市組	邑智郡	日和村	27	12.65	鉛山(字今原 与三郎外5人持分)	1ヶ所	与三郎外5人	
跡市組	邑智郡	日和村	27	7.65	鉛山(字勝地 山下百姓持分)	1ヶ所	山下百姓	
跡市組	邑智郡	日和村	27	33.15	鉛山(字室原 亀太郎外1人持分)	1ヶ所	亀太郎外1人	
跡市組	邑智郡	日和村	27	22.95	鉛山(字瀧野根 量造持分)	1ヶ所	量造	
跡市組	邑智郡	日和村	27	42.74	鉛山(字何山 量造外1人持分)	1ヶ所	量造外1人	
跡市組	邑智郡	日和村	27	58.92	鉛山(字横船)掛請吹役銀			
跡市組	邑智郡	日和村	27	70.89	鉛山(惣名字合 村辻惣百姓持分)	2ヶ所	村辻惣百姓	
跡市組	邑智郡	日和村	27	44.88	鉛山(横船 量造外1人持分)	1ヶ所	量造外1人	
跡市組	邑智郡	川戸村	35	68.85	鉛山(三田地・道平)	2ヶ所		
跡市組	邑智郡	田津村	36	342.72	鉛山	6ヶ所		
跡市組	邑智郡	渡村	37	61.8	鉛山(字八処カ)	1ヶ所		
市木組	邑智郡	中野村	38	280.5	鉛山(萩原,門谷,熊山,柳越,長尾,志谷)	6ヶ所		
市木組	邑智郡	矢上村	39	56.1	知川原鉛山			
市木組	邑智郡	市木村	40	10.2	鉛山(猪鹿)			
市木組	邑智郡	市木村	40	10.2	鉛山(兎何掛)			
市木組	邑智郡	市木村	40	94.25	鉛山(大石谷)			
市木組	邑智郡	市木村	40	168.3	鉛山(大野)			
市木組	邑智郡	市木村	40	20.4	鉛山(奥山)			
市木組	邑智郡	市木村	40	107.1	鉛山(合戦草苅原)			
市木組	邑智郡	市木村	40	61.2	鉛山(熊山)			
市木組	邑智郡	市木村	40	61.2	鉛山(棹?入)			
市木組	邑智郡	市木村	40	71.4	鉛山(瀧ヶ谷)			
市木組	邑智郡	市木村	40	91.8	鉛山(茅谷)			
市木組	邑智郡	市木村	40	32.95	鉛山(出ヶ谷)			
市木組	邑智郡	市木村	40	142.8	鉛山(日形)			
市木組	邑智郡	市木村	40	142.8	鉛山(野岩)			
市木組	邑智郡	市木村	40	102	鉛山(畑原)			
市木組	邑智郡	市木村	40	168.3	鉛山(早水)			
市木組	邑智郡	市木村	40	137.7	鉛山(水ヶ迫)			
市木組	邑智郡	市木村	40	109.65	鉛山(水ヶ迫)冥加銀			午正月～6月半年分
市木組	邑智郡	市木村	40	20.4	鉛山(室祖草)			
市木組	邑智郡	市木村	40	109.65	鉛山(室祖草)冥加銀			7月～12月
市木組	邑智郡	市木村	40	64.77	鉛山吹銀(水ヶ迫)			
市木組	邑智郡	市木村	40	190.55	鉛山吹銀(早水)			
市木組	邑智郡	市木村	40	71.4	鉛山(鱈越)			
市木組	邑智郡	上田所村	41	173.4	鉛山(立岩)			
市木組	邑智郡	上田所村	41	244.8	鉛山(田之迫)			
市木組	邑智郡	上田所村	41	326.4	鉛山(春松)			
市木組	邑智郡	上田所村	41	132.6	鉛山(深渡瀬)			
市木組	邑智郡	上亀谷村	42	47.53	木佐炭鉛山(字金谷)			
市木組	邑智郡	上亀谷村	42	51.31	木佐炭山役(字西平)			
市木組	邑智郡	上亀谷村	42	77.21	木佐炭山役(字東平)			
市木組	邑智郡	井原村	44	193.8	鉛山	6ヶ所		
市木組	邑智郡	鹿賀村	45	81.6	鉛山(鹿賀谷)			
市木組	邑智郡	因原村	46	166.52	鉛山(挽谷・尾部志)			
市木組	邑智郡	因原村	46	37.74	鉛山吹役(挽谷・尾部志)			
出羽組	邑智郡	阿須那村	55	43.86	鉛山(大平)			
出羽組	邑智郡	下田所村	65	805.8	鉛山(枯木山・若杉山・口畑山・大草山・玉田山)	5ヶ所		
出羽組	邑智郡	岩屋村	67	81.6	鉛山(字大原)			

出典:「明治二年巳小物成浮役諸運上根帳 七組之内第一」(県浜田引-02-09)、「同 七組之内第二」(県浜田引-02-08)
「明治二年旧浜田藩引継雑款」、島根県立図書館所蔵。

表3 鈩吹運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	銀札(匁)	項目	人数・個数	備考
跡市組	那賀郡	南川上村	29	657.9	銑押炭木(惠口鈩2ヶ所)	2ヶ所	
市木組	邑智郡	中野村	38	33.51	鈩吹(野口鈩)		当時起鈩に付半運上
市木組	邑智郡	中野村	38	67.01	鈩吹(門谷)		
市木組	邑智郡	市木村	40	219.3	鈩吹役銀(唐杉)		
市木組	邑智郡	市木村	40	109.65	鈩吹役銀(早水)		
市木組	邑智郡	上田所村	41	153.2	鈩吹役銀(青松)		
市木組	邑智郡	井原村	44	38.1	鋼押鈩(羽原)		
市木組	邑智郡	井原村	44	164.93	鋼押鈩吹役	2ヶ所	
市木組	邑智郡	井原村	44	25.5	銑押鈩吹役銀		10匁／月
市木組	邑智郡	因原村	46	37.74	吹役(菅之谷)		
出羽組	邑智郡	信喜村	47	122.4	銑押鈩(石見山)		
出羽組	邑智郡	阿須那村	55	122.4	鈩運上(大利鈩)		
出羽組	邑智郡	阿須那村	55	122.4	鈩運上(落合)		
出羽組	邑智郡	戸河内村	56	122.4	銑押鈩(大処)		
出羽組	邑智郡	上田村	57	367.2	銑押鈩(上之後・青山・谷口)	3ヶ所	
出羽組	邑智郡	都賀西村	58	122.4	鈩吹役(木深山)		
出羽組	邑智郡	上口羽村	59	122.4	銑押鈩(字坂口)		
出羽組	邑智郡	宇都井村	60	122.4	銑押鈩(字丸谷)		
出羽組	邑智郡	鱒渕村	62	208.08	鋼押鈩(後友)		
出羽組	邑智郡	鱒渕村	62	71.4	鋼押鈩(羽下山)		
出羽組	邑智郡	下口羽村	64	204	銑押鈩		
出羽組	邑智郡	雪田村	74	122.4	銑押鈩	1ヶ所	
三隅組	那賀郡	芦谷村	113	150	鈩	1ヶ所	
三隅組	那賀郡	黒沢村	114	300	鈩	2ヶ所	

出典:表2に同じ。

表4 鈩籠運上(市木組分)

組名	郡名	村浦名	村浦番号	鈩名	籠	運上銀札(匁)	納人	備考
市木組	邑智郡	市木村	40	鱒越鈩	14	1099.56	市木村徳市	午2月15日より5月1日
市木組	邑智郡	市木村	40	鳥兎鈩	16	1256.64	矢上村要八郎	巳10月26日より午5月7日
市木組	邑智郡	井原村	44	桐の木鈩	9	706.86	高見村廣八	午2月17日より4月16日
市木組	邑智郡	井原村	44	岩井谷鈩	14	1099.56	勘太郎	巳8月より午4月
市木組	邑智郡	井原村	44	野原鈩	7	549.78	井原村寛六郎	午3月より6月
市木組	邑智郡	因原村	46	志鈩	7	549.78	要八郎	巳12月18日より午4月15日
市木組	邑智郡	因原村	46	青松鈩	14	1099.56	四郎治	巳10月15日より午4月16日
市木組	邑智郡	因原村	46	挽谷鈩	21	824.67	因原村林十郎	巳7月3日より午4月23日,是者挿山極難場に就き半運上銀上納9匁2分7厘宛
市木組	邑智郡	中野村	38	門谷鈩	44	3455.76	市木組中野村治寛治	巳8月28日籠より午6月28日
市木組	邑智郡	中野村	38	野口鈩	9	706.86	要八郎	巳7月8日より12月22日
跡市組	邑智郡	日和村	27	横舟鈩	14	1099.56	矢上村栄作	巳11月17日より午3月28日
出羽組	邑智郡	鱒渕村	62	鱒渕羽下鈩	17	1335.18	矢上村栄作	巳10月14日より午3月10日
出羽組	邑智郡	鱒渕村	62	後友鈩	13	1021.02	出羽組稼人芳五郎	巳11月より午5月,1籠に付78匁5分4厘

出典:表1に同じ。

表5　鉄穴・砂鉄運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	銀札(匁)	項目	人数・個数	請負人	備考
跡市組	那賀郡	千田村	7	46	小鉄	1人	幾太郎納	
跡市組	那賀郡	千田村	7	15.4	小鉄	1人	新四郎納	
跡市組	那賀郡	千金村	14	50	鉄穴(字嶋ノ星山)			
跡市組	那賀郡	嘉久志村	15	5.1	鉄穴(字市ノ谷)			
跡市組	那賀郡	久保川村	16	5.1	鉄穴(字横手)			
跡市組	那賀郡	神村	19	5.61	小鉄場置	1ヶ所		
跡市組	那賀郡	神村	19	39.78	鉄穴(字叶松・六百田・後河内・かじや・大平)	5ヶ所		
跡市組	邑智郡	日和村	27	175.44	鉄穴	1ヶ所	量造外6人	
市木組	邑智郡	中野村	38	914.67	鉄穴40ヶ所,川池42ヶ所役銀			
市木組	邑智郡	矢上村	39	2110.92	鉄穴川役			
市木組	邑智郡	市木村	40	5.61	鉄穴(あさミ木屋)			
市木組	邑智郡	市木村	40	6.12	鉄穴(内ヶ原)			
市木組	邑智郡	市木村	40	7.14	鉄穴(大野野田原)			
市木組	邑智郡	市木村	40	3.57	鉄穴(柏原)			7月～12月
市木組	邑智郡	市木村	40	7.65	鉄穴(茅野かたらか谷)			
市木組	邑智郡	市木村	40	7.14	鉄穴(茅野悪谷)			
市木組	邑智郡	市木村	40	9.18	鉄穴(丸峠)			
市木組	邑智郡	市木村	40	7.14	鉄穴(森ヶ迫奥)			
市木組	邑智郡	市木村	40	3.06	鉄穴(蛇ヶ谷)			7月～12月
市木組	邑智郡	井原村	44	84.4	鉄穴	8ヶ所		
市木組	邑智郡	因原村	46	5.1	鉄穴(国惣谷)			
市木組	邑智郡	因原村	46	6.12	鉄穴(田城)			
市木組	邑智郡	因原村	46	10.2	鉄穴(道免谷)			
市木組	邑智郡	因原村	46	8.61	小鉄(挽谷・尾部志・山附・渦川)			
出羽組	邑智郡	上口羽村	59	25.5	鉄穴役銀			
出羽組	邑智郡	山田村	63	15.3	鉄穴			
出羽組	邑智郡	下口羽村	64	25.5	鉄穴(字原場・口用場・的場)	3ヶ所		
出羽組	邑智郡	淀原村	66	6.12	鉄穴			
出羽組	邑智郡	岩屋村	67	2.04	鉄穴(字山越峠之前)			
出羽組	邑智郡	岩屋村	67	5.1	大鉄穴(字田尻)			
出羽組	邑智郡	出羽村	68	14.28	鉄穴(字黒坊・臼井ヶ谷)	2ヶ所		
出羽組	邑智郡	三日市	69	3.06	鉄穴(字岩屋)			
出羽組	邑智郡	和田村	70	6.39	鉄穴			
原井組	那賀郡	日脚村	78	14.61	浜小鉄洗所運上			
原井組	那賀郡	西村	87	14.28	鉄穴場	2ヶ所		
原井組	那賀郡	横山村	90	28.56	鉄穴	4ヶ所		
原井組	那賀郡	田橋村	91	7.14	鉄穴	1ヶ所		
原井組	那賀郡	鍋石村	93	7.14	鉄砂場	1ヶ所	光太郎	
三隅組	那賀郡	室谷村	112	21.42	鉄穴			
三隅組	那賀郡	芦谷村	113	49.98	鉄穴			

出典：表2に同じ。

表6　小鉄運上

村浦名等	村浦番号	小鉄(駄)	運上銀(匁)	納人
都野津組四月改	18	2709	387.387	神村森脇吉右衛門外3人
都野津組八月改	18	2112	302.016	神村森脇吉右衛門外3人
芦谷村受役辻	113	11500	1644.5	芦谷村庄屋寛六良
室谷村受役辻	112	5500	786.5	室谷村庄屋庄三郎
横山村	90	6308	902.044	横山村庄屋織之助
田橋村	91	367	52.481	田橋村庄屋幸一郎
田橋村	91	2088	298.584	長見鑪半左衛門
西村湊小鉄	87	1613	230.659	西村庄屋市郎二
鍋石村	93	1023	146.289	柳ヶ谷鑪代春次
鍋石村	93	553	79.079	明比谷鑪利太郎
折居村浜小鉄	111	418	59.774	折居村庄屋寛六郎
内村受役	89	200	28.6	内村梅次郎
日脚村受役	78	1000	143	日脚村庄屋保太郎
津和野附井野村より黒沢村於知合鑪江越小鉄	114	286	40.898	黒沢村庄屋三浦与一郎
津和野より猿ヶ谷鑪へ越小鉄	114	164.6	23.5378	黒沢村庄屋三浦与一郎
津和野より高源(ヵ)鑪へ越小鉄	94	72.5	10.3675	野坂村庄屋
津和野より芦谷村へ越小鉄	113	401	57.343	芦谷村庄屋寛六良
外に				
長州次佐廻り		89.3	26.79	日脚村庄屋保太郎
都野津組小鉄		4821	482.1	
東西村小鉄		30570	1528.5	

出典：表1に同じ。

表7　小割鍛冶屋運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	銀札(匁)	項目	人数・個数	備考
跡市組	邑智郡	日和村	27	134.64	小割鍛冶屋(字猪迫峠林中小林請)	1ヶ所	
跡市組	邑智郡	日和村	27	134.64	鈩添鍛冶屋	1ヶ所	
跡市組	那賀郡	南川上村	29	87.72	鍛冶屋(恵口鈩)	1ヶ所	
跡市組	邑智郡	渡村	37	67.32	小割鍛冶	1ヶ所	巳2月～4月
市木組	邑智郡	中野村	38	61.2	鍛冶屋(野口)		当時稼中に付半年分
市木組	邑智郡	市木村	40	134.64	小割鍛冶		
市木組	邑智郡	市木村	40	134.64	小割鍛冶(越木)		巳7月～午3月 11匁／月
市木組	邑智郡	市木村	40	134.64	小割鍛冶(早水)		
市木組	邑智郡	上田所村	41	163.2	小檜鍛冶屋山		
市木組	邑智郡	上田所村	41	134.64	小割鍛冶		
市木組	邑智郡	井原村	44	22.44	小割鍛冶屋		5月・6月分
市木組	邑智郡	因原村	46	134.64	小割鍛冶	1軒	
出羽組	邑智郡	下田所村	65	67.32	小割鍛冶屋		
出羽組	邑智郡	高見村	72	134.64	小割鍛冶屋	2ヶ所	
出羽組	邑智郡	円ノ板	73	134.64	小割鍛冶屋	2ヶ所	
出羽組	邑智郡	雪田村	74	61.2	小割鍛冶屋	1ヶ所	
三隅組	那賀郡	黒沢村	114	100	鍛冶屋	1ヶ所	巳9月新願 9月～午6月
定見組	美濃郡	上道川村	174	269.28	小割鍛冶屋	2軒	

出典：表2に同じ。

表8 針金・釘鍛冶屋・稲扱運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	銀札(匁)	項目	人数・個数	請負人	備考
市木組	邑智郡	上田所村	41	26.93	鍛冶屋(針金カ)			
市木組	邑智郡	上亀谷村	42	67.32	釘鍛冶屋(字亀谷)			5分5厘／月
市木組	邑智郡	上亀谷村	42	26.93	釘金鍛冶屋(字大草)			2匁2分／月
市木組	邑智郡	井原村	44	67.32	釘地鍛冶屋			5匁5分／月
出羽組	邑智郡	信喜村	47	33.66	釘地鍛冶屋			半年分
跡市組	那賀郡	千田村	7	15	稲扱冥加銀	1人	小次郎	

出典:表2に同じ。

表9 瓦師運上

村浦名	村浦番号	納人	銀札(匁)	備考
跡市組本明村	6	幸三郎	4.335	半年分
跡市組本明村	6	峯太郎	4.335	半年分
跡市組千田村	7	小次郎	4.335	半年分
跡市組嘉久志村	15	浅之助	8.67	
跡市組嘉久志村	15	廣十郎	5.1	半年分
跡市組都野津村	18	嘉次郎	10.2	
跡市組神村	19	芳十郎	10.2	
跡市組神主村	20	種吉	10.2	
跡市組敬川村	21	為十郎	10.2	
跡市組高田村	23	平次郎	10.2	
跡市組高田村	23	平次郎	8.67	
跡市組久代村	24	与惣次	8.67	
跡市組久代村	24	与惣次	8.67	
跡市組日和村	27	虎渓(カ)三	10.2	
原井組西村	87	善太郎	10.2	
原井組浅井村	102	勇平	10.2	
原井組浅井村	102	幾衛	8.67	
原井組長沢村	103	源助	8.67	
原井組長沢村	103	伝市	8.67	
原井組長沢村	103	喜代次郎	10.2	
原井組生湯浦	186	勝次郎	10.2	
三隅組福浦	197	順造	8.67	
三隅組福浦	197	治郎兵衛	8.67	

外に
瓦株冥加銀

嘉久志村	15	廣十郎	700	

出典:表1に同じ。

表10 瓦・丸物など運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	銀札(匁)	項目	人数・個数	請負人	備考
跡市組	那賀郡	本明村	6	40.8	丸物焼	1ヶ所		
跡市組	那賀郡	千田村	7	43.86	丸物	3人	多吉外2人	
跡市組	那賀郡	千田村	7	5.13	丸物冥加銀	1人	小次郎	半ヶ年分
跡市組	那賀郡	千田村	7	21.93	丸物冥加銀	1人	又次	半ヶ年分
跡市組	那賀郡	嘉久志村	15	43.86	丸物場役銀	1ヶ所		
跡市組	那賀郡	和木村	17	43.86	鵜場	1ヶ所		
跡市組	那賀郡	高田村	23	20.4	丸物焼	1ヶ所		
跡市組	那賀郡	久代村	24	20.4	丸物焼	1ヶ所		
跡市組	那賀郡	飯田村	31	43.86	丸物釜手役			
原井組	那賀郡	原井村	75	30.6	丸物	1人	青江九郎平	
原井組	那賀郡	長浜村	77	20.4	丸物	1ヶ所		
原井組	那賀郡	長浜村	77	42.98	焼物人形細工師	1人		
原井組	那賀郡	黒川村	96	12	瓦屋根			
原井組	那賀郡	長沢村	103	43.86	丸物		勝造	
原井組	那賀郡	長沢村	103	21.42	丸物		岩造	
三隅組	那賀郡	西河内村	108	15.3	丸物			
三隅組	美濃郡	土田村	128	15.3	丸物師	1人		
三隅組	那賀郡	向野田村	131	15.3	丸物屋	1人		
益田組	美濃郡	下本郷村	144	4.25	瓦師	1人		山口藩へ納
益田組	美濃郡	木部村	148	20.4	丸物師	1人		

出典:表2に同じ。

表11 焼物冥加

納人	銀札(匁)	種類など
治郎助・文作	18	年々茶碗三百宛上納の分代納,且御用丸物師に付竈屋根入用材木御林の内より伐出し、相当の代銭立て下ヶ渡先例の由
浅四郎	10	白焼同断
浅井村新四郎	10	鈩山の内土火鉢類焼竈床
浅井村次郎助	43.86	丸物焼
文作	43.86	丸物焼
浅井村勇平	41.67	石灰焼
浅井村勇平	10.21	油丸焼

出典:表1に同じ。

表12 紙漉船運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	銀札(匁)	項目	個数(艘)	備考
跡市組	那賀郡	宇津井村	1	3.06	紙漉船	3	
跡市組	那賀郡	姉金村	2	3.06	紙漉船	3	
跡市組	那賀郡	大津村	3	2.4	紙漉船	2	1匁／艘
跡市組	那賀郡	下有福村	4	2.4	紙漉船	2	1匁／艘
跡市組	那賀郡	上有福村	5	4.08	紙漉船	4	1匁／艘
跡市組	那賀郡	本明村	6	6.12	紙漉船	6	1匁／艘
跡市組	那賀郡	千田村	7	6.12	紙漉船	3	1匁／艘
跡市組	那賀郡	跡市村	8	17.34	紙漉船	17	1匁／艘
跡市組	邑智郡	清見村	9	2.04	紙漉船	2	1匁／艘
跡市組	邑智郡	伊澤村	10	6.12	紙漉船	6	1匁／艘
跡市組	那賀郡	田原村	11	9.18	紙漉船	9	1匁／艘
跡市組	那賀郡	平床村	12	6.12	紙漉船	6	1匁／艘
跡市組	那賀郡	千金村	14	1.02	紙漉船	1	
跡市組	邑智郡	後山村	26	10.2	紙漉船	10	1匁／艘
跡市組	那賀郡	南川上村	29	2.04	紙漉船	2	1匁／艘
跡市組	邑智郡	今田村	30	10.2	紙漉船	10	1匁／艘
跡市組	邑智郡	市山村	32	25.5	紙漉船	25	
跡市組	邑智郡	小田村	33	28.56	紙漉船	28	
跡市組	邑智郡	江尾村	34	18.36	紙漉船	18	1匁／艘
跡市組	邑智郡	渡村	37	4.08	紙漉船	4	
市木組	邑智郡	鹿賀村	45	4.08	紙漉船	4	
市木組	邑智郡	因原村	46	5.1	紙漉船	5	
出羽組	邑智郡	瀬原村	49	3.57	紙漉船		
出羽組	邑智郡	明塚村	52	2.04	紙漉船	2	
出羽組	邑智郡	粟瀬村	53	15.3	紙漉船	15	
出羽組	邑智郡	阿須那村	55	10.2	紙漉船	10	
出羽組	邑智郡	戸河内村	56	2.04	紙漉船	2	
出羽組	邑智郡	上田村	57	1.02	紙漉船	1	
出羽組	邑智郡	宇都井村	60	3.06	紙漉船	3	
出羽組	邑智郡	下口羽村	64	7.14	紙漉船	7	
出羽組	邑智郡	雪田村	74	2.04	紙漉船	2	
原井組	那賀郡	宇野村	107	15.3	紙漉船	5	1匁／1年
三隅組	美濃郡	丸茂村	122	2.04	紙漉船	2	
三隅組	美濃郡	都茂村	123	3.06	紙漉船	3	
三隅組	美濃郡	津茂村	124	19.14	布紙漉船	3	
益田組	美濃郡	上波田村	154	5.1	紙漉船	5	
定見組	美濃郡	澄川村	160	119.34	紙漉船	117	1匁／艘
定見組	美濃郡	広瀬村	161	71.4	紙漉船	70	1匁／艘
定見組	美濃郡	千原村	162	11.22	紙漉船	11	1匁／艘
定見組	美濃郡	道谷村	163	11.22	紙漉船	11	1匁／艘
定見組	美濃郡	篤木村	164	9.18	紙漉船	9	1匁／艘
定見組	美濃郡	矢尾村	165	15.3	紙漉船	15	1匁／艘
定見組	美濃郡	内石村	166	13.26	紙漉船	13	1匁／艘
定見組	美濃郡	内谷村	167	26.52	紙漉船	26	
定見組	美濃郡	小平村	168	3.6	紙漉船	3	1匁／艘
定見組	美濃郡	西村	170	15.3	紙漉船	15	1匁／艘

出典：表2に同じ。

表13 半紙運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	納人人数(人)	数量(束)
跡市組	那賀郡	宇都井村	1	3	90
跡市組	那賀郡	千田村	7	1	30
跡市組	那賀郡	跡市村	8	6	330
跡市組	那賀郡	南川上村	29	1	30
跡市組	邑智郡	市山村	32	3	180
跡市組	邑智郡	川戸村	35	4	120
市木組	邑智郡	中野村	38	2	60
市木組	邑智郡	矢上村	39	5	150
市木組	邑智郡	市木村	40	1	30
市木組	邑智郡	井原村	44	3	90
市木組	邑智郡	鹿賀村	45	2	60
市木組	邑智郡	因原村	46	1	30
出羽組	邑智郡	下口羽村	64	2	60
出羽組	邑智郡	下田所村	65	1	30
原井組	那賀郡	原井町	75	2	60
原井組	那賀郡	熱田村	76	2	60
原井組	那賀郡	長浜村	77	9	300
原井組	那賀郡	日脚村	78	2	60
原井組	那賀郡	西村	87	2	90
原井組	那賀郡	内田村	88	3	90
原井組	那賀郡	牛一町	96	2	90
原井組	那賀郡	黒川村	96	2	60
原井組	那賀郡	田町	102	2	60
原井組	那賀郡	松原浦	187	7	240
原井組	那賀郡	瀬戸ヶ嶋	188	1	30
原井組	那賀郡	浜田八町		9	300
三隅組				73	2790
益田組	美濃郡	益田村	134	15	660
益田組	美濃郡	中吉田村	138	1	60
益田組	美濃郡	中ノ嶋村	140	1	60
益田組	美濃郡	上本江村	144	3	120
益田組	美濃郡	津田村	147	6	330
益田組	美濃郡	木部村	148	4	120
益田組	美濃郡	仙道村	151	9	270
益田組	美濃郡	小原村	152	3	90
益田組	美濃郡	三谷村	153	1	30
益田組	美濃郡	上波田村	154	3	90
益田組	美濃郡	笹倉村	156	1	30
益田組	美濃郡	大谷村	159	2	60
定見組	美濃郡	澄川村	160	2	60
定見組	美濃郡	道谷村	163	1	30
定見組	美濃郡	内谷村	1	1	30
定見組	美濃郡	西村	1	1	30
定見組	美濃郡	東村	173	2	60

出典：表1に同じ。

表14 出入浦運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	銀札(匁)	備考
原井組	那賀郡	松原浦	187	8587.7268	松原浦外之浦両所水揚積出場諸運上,内841匁9分3厘大年寄役料として上納銀の内十分一差引
原井組	那賀郡	浜田浦	188	7904.643	浜田浦水揚積出場諸運上,内774匁9分7厘大年寄役料として上納銀の内十分一差引
原井組	那賀郡	長浜浦	190	6969.1296	長浜浦水揚積出場諸運上銀,内683匁2分4厘下改方給料として上納の内一割差引
益田組	美濃郡	益田七ヶ浦		4590	鰯板場町方共1貫目問屋共1貫900目浦々船持共
三隅組	那賀郡	三隅五ヶ浦		1530	水揚積出諸運上

出典：表1に同じ。

表15 廻船運上

組名	郡名	村浦名	村浦番号	銀札(匁)	順位	船数(艘)	備考
跡市組	那賀郡	国分村唐鐘浦	176	77.84	9	7	
跡市組	那賀郡	国分村金周布浦	177	14.15	18	1	
跡市組	那賀郡	波子浦	179	193.37	5	21	
跡市組	那賀郡	敬川村	180	54.76	12	5	
跡市組	那賀郡	都野津浦	182	246.86	3	4	
跡市組	那賀郡	和木浦	183	35.64	15	3	
原井組	那賀郡	下府浦	185	35.4	16	4	
原井組	那賀郡	松原浦	187	81.3	8	4	
原井組	那賀郡	浜田浦	188	188.86	6	10	
原井組	那賀郡	熱田浦	189	9.96	20	1	
原井組	那賀郡	長浜浦	190	72.99	10	7	
原井組	那賀郡	津摩浦	191	41.4	13	4	
三隅組	那賀郡	湊浦	192	296.94	2	6	廻船2艘役銀の内2艘売払に付半年分役銀引
三隅組	那賀郡	湊浦	192	7.73	22	1	当春買入に付半年分
三隅組	那賀郡	古湊(古市場村)	193	38.33	14	1	
三隅組	那賀郡	福浦(西河内村)	197	8.9	21	1	
益田組	美濃郡	中須浦	199	351.66	1	14	
益田組	美濃郡	遠田浦	201	201.72	4		
益田組	美濃郡	津田浦	202	109.25	7		
益田組	美濃郡	大谷浦	204	59.57	11		
益田組	美濃郡	大浜浦(木部浦)	205	13.12	19		
三隅組	那賀郡	折居(湊浦・福浦入会の内)		15.72	17	1	

出典：表1に同じ。

表16　島根県のたたら製鉄業精錬場数、原料、生産量の変遷

年(西暦)	精錬場数(ヶ所)	精錬原料(貫)	銑(貫)	鉧(貫)	鋼(貫)	錬鉄(貫)
明治38(1905)	28	3886316	422620	207919	381272	430189
明治39(1906)	28	3711766	389272	190527	245357	412459
明治40(1907)	25	4150789	349387	142330	245134	265046
明治41(1908)	30(20カ)	1699789	206345	110167	82787	99372
明治42(1909)	17	979944	135846	52637	35377	72681

出典:『各府県重要商品調査報告』農商務省商務局、明治44年(1911)、国立国会図書館所蔵

表17　明治43年(1910)12月島根県内10人以上使役たたら製鉄業関係工場所在地・製品概要・雇用者数

地域	工場名	所在地名		製造高			雇用者(人)		
				製品の種類	数量(貫)	価額(円)	男	女	合計
石見	鈩	邑智郡	口羽村	銑・鉧	3570	375	11	0	11
出雲	菅谷鈩	飯石郡	吉田村	鋼・銑・鉧	87459	7760	54	0	54
	杉戸鈩	飯石郡	吉田村	鋼・銑・鉧	26813	3311	49	0	49
	町鍛冶屋	飯石郡	吉田村	鉄(錬鉄)	13087	3402	26	0	26
	芦谷鍛冶屋	飯石郡	吉田村	鉄(錬鉄)	24626	6403	29	0	29
	杉谷鍛冶屋	飯石郡	田井村	鉄(錬鉄)	26330	6846	29	0	29
	鉄穴鈩	仁多郡	八川村	鋼・銑・鉧	38438	6000	25	0	25
	槙原鈩	仁多郡	阿井村	銑	75434	6034	42	20	62
	内谷鍛冶屋	仁多郡	阿井村	錬鉄	19488	6489	46	0	46
	安来煉鉄工場	能義郡	安来町	諌(煉カ)鉄・錬銅	63000	19280	15	0	15
	合計				374675	65525	315	20	335

出典:『島根県産業案内』島根県内務部、明治45年(1912)、島根大学附属図書館所蔵
註:「雇用者」は、「職工及徒弟人員」と「労働人夫」の合計である。

表18　明治35年(1902)段階での三原村飼育牛頭数内訳(頭)

	牡牛	牝牛	合計
耕作用	96	27	123
駄賃用	13	0	13
三歳未満のもの	44	12	56
合計	153	39	192

出典:『島根県邑智郡三原村農事調査報告書』
島根県農会、明治38年(1905)、
島根県立図書館所蔵

表19　明治43年(1910)12月島根県内10人以上使役瓦・陶器製造工場所在地・製品概要・雇用者数

地域	工場名	所在地名		製造高			雇用者(人)		
				製品の種類	数量(箇)	価額(円)	男	女	合計
石見	木坂工場	那賀郡	石見村	赤瓦	156000	3276	17	0	17
	亀谷工場	那賀郡	石見村	赤瓦	153000	3213	15	0	15
	山口工場	那賀郡	石見村	赤瓦	121000	2541	25	0	25
				粗陶器	123000	3075			
				合計	244000	5616			
	手代延工場	那賀郡	石見村	赤瓦	92000	1932	20	1	21
				粗陶器	42000	1055			
				合計	134000	2987			
	吹ヶ迫工場	那賀郡	石見村	赤瓦	113000	2375	18	0	18
				粗陶器	84500	2112			
				合計	197500	4487			
	泉陶器製造所	那賀郡	江津村	粗陶器	640000	16000	21	0	21
	合計				1524500	35579	116	1	117

出典:表17に同じ。
註:「雇用者」は、「職工及徒弟人員」と「労働人夫」の合計である。

表20　石見産紙の種類

製品名	備考
上漉半紙	イハミノクニヨシカ
中漉半紙	イハミノクニヨシカ
中漉塵紙	
中漉中折・障子紙	
中漉板紙	
石州半紙・茶半紙	セキシウハマタカミ
石州塵紙	セキシウハマタカミ
市山半紙	セキシウイチヤマカミ
市山塵紙	セキシウイチヤマカミ
花岡半紙	アラタメノモシヤイ
伊東半紙	ヲムクラヲサメカミ
石見宇田・帳面紙	

出典：尾崎富五郎編『改正諸国紙名録』錦誠堂、明治10年（1877）、国立国会図書館所蔵

表21　明治23年(1890)11月現在江津村商工業内訳・営業者

所在地			営業品・営業種別1	営業品・営業種別2	営業者名等	
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商	廻船業	泉屋	山本英一
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商	廻船業	釜屋	飯田源之丞
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商	廻船業	玉島屋	藤田吉郎
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商	廻船業		矢富徳太郎
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商	廻船業	讃岐屋	千代延竹五郎
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商	廻船業	泉屋	山本萬太郎
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商	廻船業	平岡屋	平田久四郎
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商			福原金治郎
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商			山藤庄次郎
石見国	那賀郡	江津村	国産銑鉄万卸商		花屋	山藤傳太郎
石見国	那賀郡	江津村	国産陶器製造卸商		出野屋	泉　長九郎
石見国	那賀郡	江津村	国産陶器製造卸商			仁木忠兵衛
石見国	那賀郡	江津村	国産陶器製造卸商			山吉好吉
石見国	那賀郡	都濃村字嘉久志	国産陶器製造卸商			山形米三郎

出典：『日本全国商工人名録』日本全国商工人名録発行所、明治25年(1892)、国立国会図書館所蔵

表22　明治44年（1911）江津村商工業内訳

所在地			営業品・営業種別	経営者・経営店
石見国	那賀郡	江津村	呉服・太物・荒物・小間物商	八神屋商店
石見国	那賀郡	江津村	食塩・油類・雑穀・砂糖・肥料・木炭卸売	江津商業株式会社
石見国	那賀郡	江津村	煙草元売捌・薬種及染料・独乙眼鏡・雑貨・度量衡器販売	池田真栄堂
石見国	那賀郡	江津村	銀行	江津銀行
石見国	那賀郡	江津村	呉服	田中商品
石見国	那賀郡	江津村	回漕業	山亀回漕店
石見国	那賀郡	江津村	酒造	千代延
石見国	那賀郡	江津村	醤油	山藤好太郎
石見国	那賀郡	江津村	宿	牛尾
石見国	那賀郡	江津村	宿	飯山館
石見国	那賀郡	江津村	宿	花屋
石見国	那賀郡	江津村	回漕業	岩谷回漕店
石見国	那賀郡	江津村		塩友商店

出典：多納佐三郎編『国民日用便覧』報光社、明治44年（1911）、国立国会図書館所蔵

表23　明治23年(1890)11月現在浜田町商工業内訳・営業者

番号	所在地			営業品・営業種別1	営業品・営業種別2	営業者名等		備考
1	石見国	那賀郡	浜田町	半紙・鉄・銑・瓦・生蝋・扱苧・油卸商		河内屋	西坂彦太郎	○
2	石見国	那賀郡	浜田町	諸品卸商(大割鉄・小長判鉄)	酒・醤油醸造		石津平造	○
3	石見国	那賀郡	浜田町	鉄・油類・半紙・鉄卸商	廻漕店	河内屋	西坂秀三郎	○
4	石見国	那賀郡	浜田町	砂糖・銑・鉄・扱苧仲買商	半紙・生蝋・油類	温泉津屋	江本善四郎	○
5	石見国	那賀郡	浜田町	諸品仲買商	穀物商		井内猪十郎	
6	石見国	那賀郡	浜田町	扱苧・鍛鉄・紙・楮・油類万仲買商			沼田利八	○
7	石見国	那賀郡	浜田町	海産物仲買商			佐藤嘉一郎	
8	石見国	那賀郡	浜田町	呉服太物洋反物商	荒物・小間物類		安達幾太郎	
9	石見国	那賀郡	浜田町	呉服太物洋反物商	小間物販売		佐野長兵衛	
10	石見国	那賀郡	浜田町	呉服太物洋反物商	荒物・小間物類		岡山六兵衛	
11	石見国	那賀郡	浜田町	呉服太物洋反物商	荒物・小間物類		横山勉精堂	
12	石見国	那賀郡	浜田町	呉服太物洋反物商	小間物類		中村國四郎	
13	石見国	那賀郡	浜田町	反物・小間物・荒物・塗物販売所			佐野茂一郎	
14	石見国	那賀郡	浜田町	生蝋油類商			俵助太郎	
15	石見国	那賀郡	浜田町	蝋油贅附商			桐田治右衛門	
16	石見国	那賀郡	浜田町	薬種絵具洋酒商	全国有名売薬大取次所		俵　新十郎	
17	石見国	那賀郡	浜田町	書籍筆墨紙類商			安達共栄堂	
18	石見国	那賀郡	浜田町	活版石版印刷業			濱田活版所	
19	石見国	那賀郡	石見村	清酒醸造販売			宇津寅一	
20	石見国	那賀郡	浜田町	酒・醤油醸造販売			大達新作	
21	石見国	那賀郡	浜田町	酒類醸造販売			俵　元右衛門	
22	石見国	那賀郡	浜田町	諸国陶器商			三浦為治	
23	石見国	那賀郡	浜田町	万大工道具・鍋・釜卸商	諸車製造所		秋田青造	
24	石見国	那賀郡	浜田町外浦	回漕業		海士屋	小林藤一郎	
25	石見国	那賀郡	浜田町外浦	回漕業		西坂屋	西坂彦太郎	支店
26	石見国	那賀郡	浜田町	各府県官吏御定宿	諸国商人衆御定宿	線香屋	山岡いと	
27	石見国	那賀郡	浜田町	旅人宿		道具屋	川村とく	
28	石見国	那賀郡	浜田町	濱田銀行			頭取:岡本俊信 支配人:横山直内	資本金10万円
29	石見国	那賀郡	浜田町	津和野第五十三国立銀行支店			支配人	
30	石見国	那賀郡	浜田町	無限責任共立会社 業務:諸産物抵当貸、荷為換取扱、 諸産物委託販売、石油売買			社長:小林藤一郎 支配人:古起辰次郎	
31	石見国	那賀郡	浜田町	石見産紙会社　業務:半紙委託販売			社長:彌重養介	
32	石見国	那賀郡	浜田町	山陰水産会社　業務:海産物売買			社長:横山直内 支配人:上村三郎	
33	石見国	那賀郡	浜田町	汽船取扱会社　業務:汽船荷客取扱			社長:岩間路一	
34	石見国	那賀郡	浜田町	石見新報			石見新報社	定価:1枚2銭5厘1ヶ月分前金 広告料:20字詰1行1回金1銭5厘
35	石見国	那賀郡	長浜村	国産半紙・生蝋・扱苧・銑・鉄仲買商		大和長	竹吉登一郎	○
36	石見国	那賀郡	長浜村	国産半紙取扱商	廻船問屋	竹利事	宇津利三郎	
37	石見国	那賀郡	長浜村	半紙・生蝋・扱苧・銑・鉄・陶器仲買商		吉田屋	村上七太郎	○
38	石見国	那賀郡	三階村字長見	鉄・銑製造販売			三浦清三郎	○
39	石見国	那賀郡	波佐村	鉄製造販売(三浦彦太郎)			佐竹要助	○

出典:表21に同じ。
註:備考欄の○は、鉄の製造、取引に関わる商家を示している。

表24　明治44年(1911)浜田町商家内訳

順位	営業種類・取り扱い品	軒数(軒)	備考	順位	営業種類・取り扱い品	軒数(軒)	備考
1	宿	20		21	写真	2	
2	呉服・洋服類	20		22	自転車	2	
3	醤油・味噌・酢類	11		23	魚	2	
4	酒類	8		24	小間物	2	
5	雑穀	7	内1軒:石油、木炭売買、回漕業も兼ねる。	25	缶詰	2	
6	靴	6		26	菓子	2	
7	薬	6		27	印刷	2	
8	紙	5		28	文具	1	
9	金物・鋳物	5		29	鉄	1	
10	時計	4		30	漬物	1	
11	雑貨	4		31	茶	1	
12	銀行	4		32	煙草	1	
13	乾物	4		33	畳表	1	
14	印房	4		34	漆器	1	
15	陶器	3	内1軒:木炭・木材問屋も兼ねる。	35	果物	1	
16	本	3		36	ガラス	1	
17	家具	3		37	絵	1	
18	糸	3		38	運輸	1	
19	肥料	2		39	不明	9	
20	染色	2			合計	158	

出典:表22に同じ。

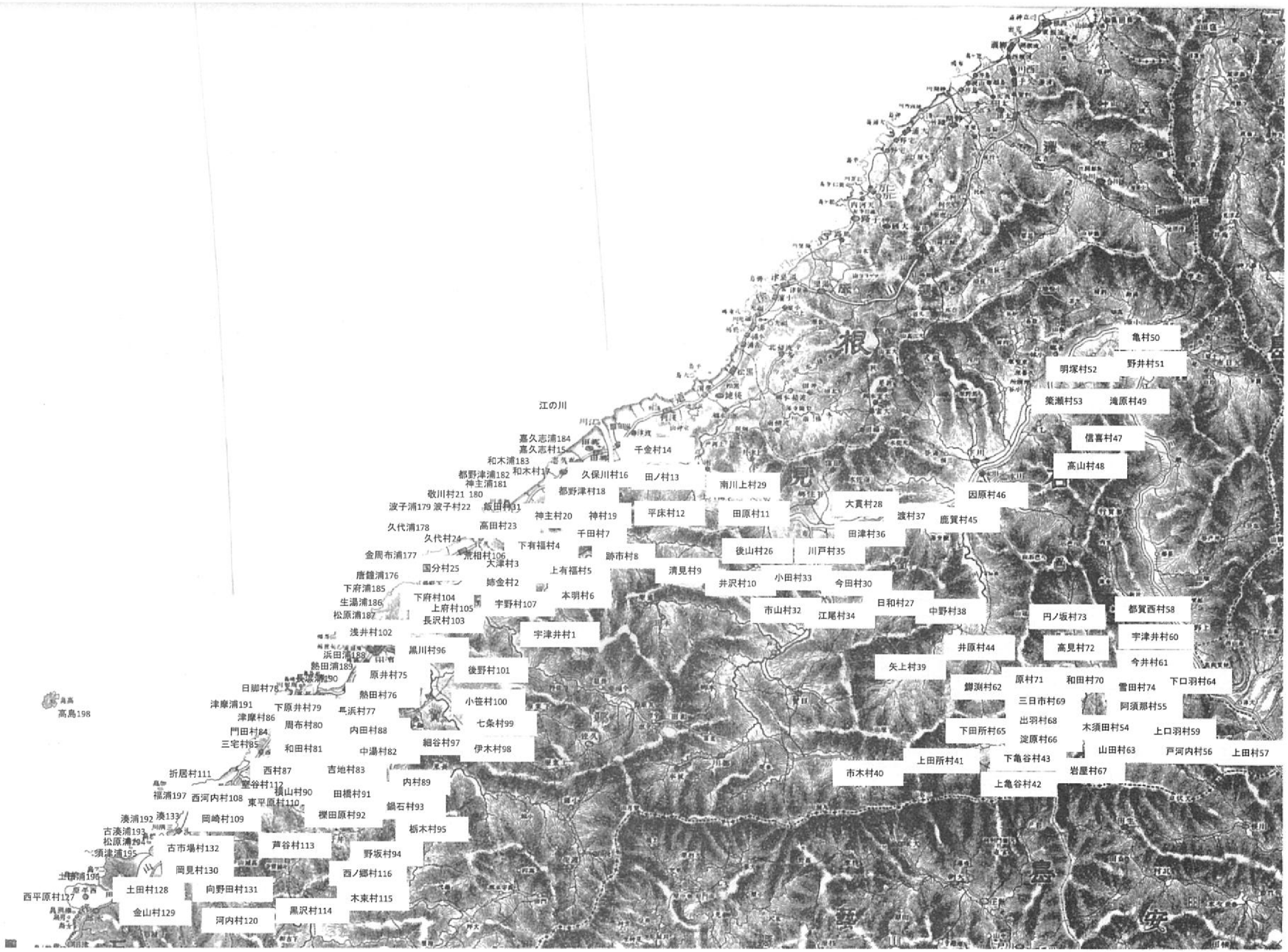

図1　石見国東部・中部関係図（「輯製二十万分一図復刻版島根県全図（明治22年）」（『日本歴史地名体系33　島根県の地名』平凡社、1995）を加工引用）

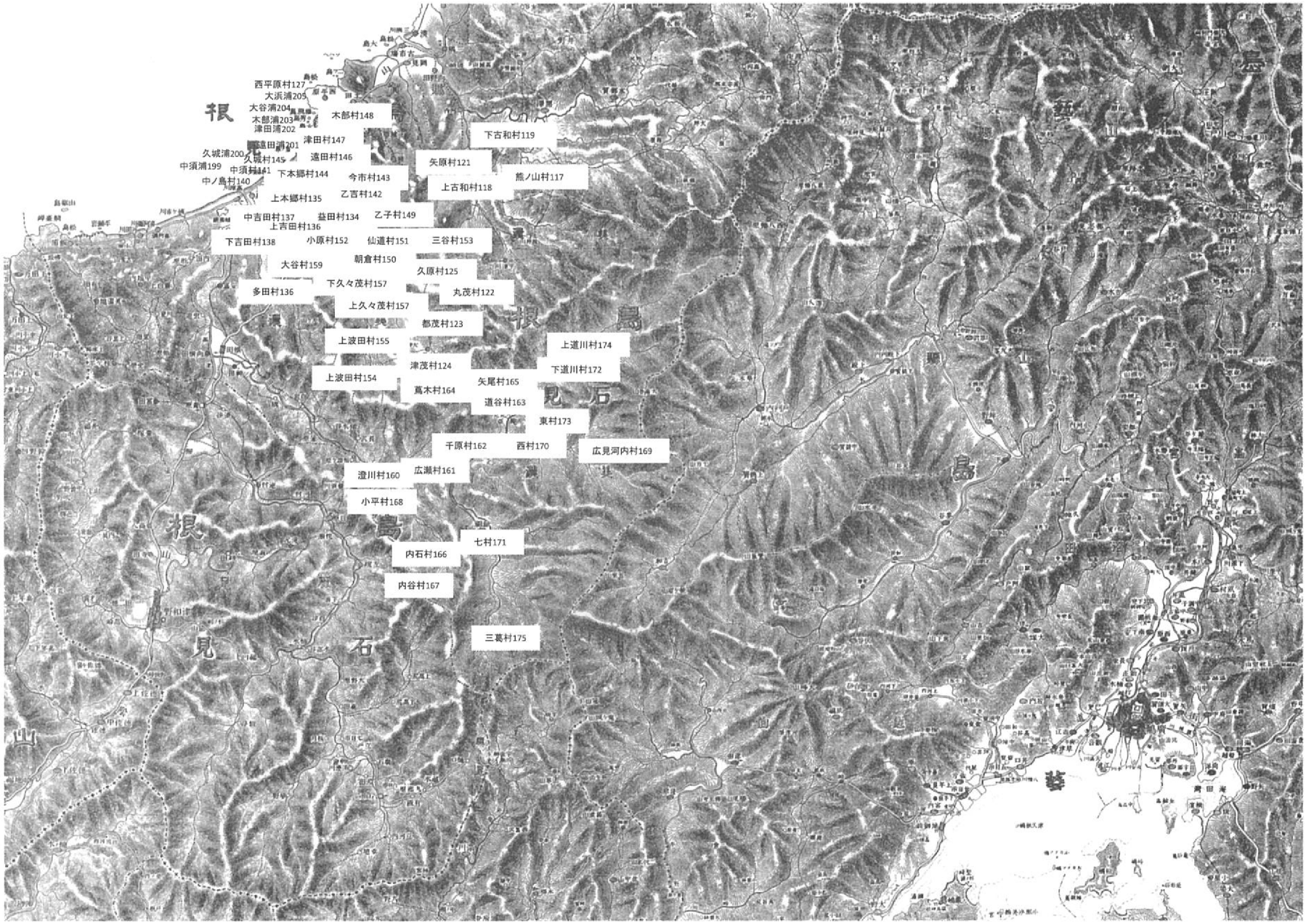

図2　石見国西部関係図（「輯製二十万分一図復刻版島根県全図（明治22年）」（『日本歴史地名体系33　島根県の地名』平凡社、1995）を加工引用）